

平成 25 年度愛媛大学技術系実務研修報告

実習工場技術班 政岡 孝

主 催：国立大学法人愛媛大学
 研修月日：平成 25 年 10 月 30 日（水）
 研修会場：愛媛大学工学部

1. 研修の目的

本研修は、技術系職員の業務を知り実際に触れることにより、技術部の担う役割、技術部の業務について理解を深めるとともに、職員相互の意識および資質の向上を図り、円滑な業務遂行につながることを目的に実施する。

2. 研修受講者数（11 名）

総務部人事課	: 4 名
教育学生支援部	: 1 名
社会連携支援部	: 1 名
国際連携支援部	: 1 名
財務部事務課	: 1 名
教育学部事務課	: 1 名
先端研究・学術推進機構	: 2 名

3. 研修日時・場所及び内容

10 月 30（水）	13：00	受付，開会	工学部講義棟 1F	EL - 12
	13：10	講義 1	－ものづくりの基本－	講師：政岡 孝
	13：25	講義 2	－溶接作業の基本－	講師：石丸 恭平
	13：40	講義 3	－ボール盤の基本－	講師：田中正浩
	13：55	休憩	実習工場へ移動	
	14：10	実習 I，実習 II	(2 組交代制)	講師：実習工場技術職員 4 名
		実習 I	(ボール盤による金属板の穴あけ作業)	－30 分－
		実習 II	(アーク溶接作業の体験)	－30 分－
	15：15	全体ディスカッション，アンケート記入	工学部講義室 1F	EL - 12
	15：30	閉会		

4. 研修内容

本研修は、本学事務職員・有期契約職員において、通常業務では触れることが少ない技術系職員の業務について理解を深める機会となり、第一種衛生管理者の資格保有者等、労働安全衛生に関係する職員においては、労働安全衛生関係法令の知識が深まることから、事務系職員や先端研究・学術推進機構に所属する技術職員の 11 名の参加があった。

4.1 講義内容

講義 1 では、工学部実習工場の業務内容が紹介され、学生の実験・実習支援の内容や実験装置の製作、機

器具の管理・設計・開発等の専門的技術業務の説明があった。また、ものづくりの基本として、日常にある品物がどのような工作機械を使って作られているかを解りやすく紹介された。

講義2では、金属材料を電気アーク溶接で接合するための基本や機器の取り扱い方、溶接作業の手順、安全対策や保護具の着用、発生する事故事例など説明があった。

講義3では、ボール盤作業の安全として、ボール盤の取り扱い方や材料の固定方法、使用不可の物品、ドリルを使った穴あけ作業中に発生するケガや巻き込み事例などの説明があった。

4.2 実習 I, II

実習では、講義を受けた工作機械や溶接機器を操作してものづくり実習及び体験を行った。実習中は作業服と保護具を着用して、作業手順の説明を理解し金属材料への穴あけ作業やアーク溶接機によるアークの発生体験を実施した。

4.3 全体ディスカッション

受講者と講義・実習を担当した技術職員による全体ディスカッションを行った。特に安全、危険予知に関する質問や実習工場との所属部署の関連性について質疑応答が行われた。実習工場の業務を理解したことで、関連性の業務や技術職員との連携を高めることができた。

5. まとめ

本研修は、初めて事務系職員を対象とした技術実務研修が実施された。目的である技術部の役割や技術職員の業務を知り触れることにより相互理解を深め、業務の円滑な遂行の中で教育・学生支援の一助となることのできる研修となった。また、技術職員が講師となることで研修資料の作成やプレゼンテーション能力の向上をする機会となった。



写真-1 講義風景



写真-2 実習 溶接作業



写真-3 実習 ボール盤作業



写真-4 全体ディスカッション